



キラリと輝く生き方 女性の起業話

WORKING WOMENのススメ

vol.5 女性が社会で活躍する国・ノルウェー視察リポート③

石山純恵さん

福島市在住、2児の母。

起業、国際結婚、離婚を経て平成20年に再起業。多言語翻訳と研修立案案等の会社「クリフ」を設立。NPO法人Tomorrowに参画し市内3か所の学童保育所を運営。福島の女性起業家として講演や研修を行うほか、子どもから企業管理職までの幅広い人材教育事業に関わる。豊富な経験を生かし多方面で活躍中。25年全国商工会議所女性会連合会第12回女性起業家大賞「最優秀賞」受賞。福島県ベンチャーアワード2013「金賞」受賞。

【問い合わせ】

☎024(531)8120

その不思議を解くために私は自由時間に電車で見知らぬ街に降り立ち、住宅街を散策して街の人々に耳を傾けてみたのです。そして私なりました。

3回にわたったノルウェーリポートも今回が最終回。ノルウェーの政治経済界などで活躍している女性たちとの交流を通して、私は彼女らの自信に満ちた言動を目のあたりにして自分がまだまだ弱で未熟に思いました。もっと頑張らなければという気持ちでなんだかしつくりこない気持ちと複雑でした。

歩き夕ハコ「ミニ落書き」の多さにまず驚きました。また、平等ゆえに「レディファースト」という感覚がないのでしょうか?

重い荷物を抱えた女性に手を差し伸べる男性も見当たりませんで

く、「背の高い痩せた北欧人イメージは覆されました。

資源国ノルウェーと日本とでは国の財力に圧倒的な差があり、同じように出来るはずもないとも思いました。「日本はまだまだ遅れている」と鼻息を荒くするより、今できることが大事だと強く思つた旅となりました。

りの「平等と多様性の裏表を見つけた気がしました。

オスロの道路は、車と大型バスと路面電車が走る中でバイクと自転車と自分勝手に行き交う人、どを問わず、共生できる環境をつくることではないか。その仕組みを作るためには、まず異なる考え方を持った各々の人が声を出し合

い、しかも自分勝手な言い分だけではない他者意識を持つて理解し合うことから始まるのではないか。

1。